

コンビニから社会を覗く ——子どもの興味から社会 への発信——

大阪府東大阪市立小阪中学校

かわはらかずゆき

河原和之

【実践の内容】

コンビニを切り口として社会をかいま見る授業である。授業は「入力」「調査」「発表」「討論」「発信」によって構成される。「子どもの興味・疑問」「コンビニ商品」から導入の授業を行なう中でコンビニ急増の社会的背景を学習する。そして、コンビニへの「環境」「福祉」などをテーマにした調査・体験学習である。学習後の「発信」は「未来型コンビニ」の開発を通じて、現代社会の課題を子どもの目線から検証していく。「日常の世界」から「科学の世界」へいざないつつ、学習意欲をなくしていると言われる中学生を意欲的にさせるひとつの実践である。中学1年地理的分野の「第三次産業」の単元である。

【論文内容の紹介】

1 コンビニ学習プラン

コンビニ関係書籍10数冊と、近くのコンビニや本部への取材を軸としながら、次のような学習プランで実践した。

- ①コンビニの謎をさぐる（子どもの疑問から）
- ②コンビニが伸びてきた背景をさぐる
- ③コンビニ調査学習
- ④コンビニ調査学習発表会
- ⑤⑥未来型コンビニの開発
- ⑦未来型コンビニ発表会

2 コンビニの授業

「どうしてコンビニというのか?」「なぜ書籍売り場が入り口近くにあるのか?」「なぜ弁当売り場が奥にあるのか?」などの疑問を解き明かすことから授業をはじめる。このこ

とから「コンビニの本質」を明らかにする。そして、コンビニ急増の背景を「コンビニの商品」から考えさせる。教室に「おにぎり」「高級ラーメン」「弁当」「お茶漬け」などコンビニ商品を持ち込む。ここから「高級化志向」「個食化」という「消費性向」の変化を学習する。配送の効率化の背景にある高速道路網の整備や、3000アイテムを管理できるようになったPOSシステムに象徴される情報化社会の進展などが、コンビニの伸びてきた背景にあることを学習していく。

3 コンビニ調査学習から発表学習へ

「環境」「障害者」「高齢者」「おもしろさがし」「悩み」「防犯対策」の6つのテーマで「調査学習」を行なう。「環境」をテーマにした班は、「弁当の添加物」「再生紙使用商品」などの商品調べを行なった。また制服がペットボトルの再生でできていること、弁当や総菜をいれるパックは発ガン性物質であるダイオキシンをださない包装であるというプラス面と、莫大な電気使用量やゴミの量などマイナス面を取材の中でつかんできた。発表は実物やクイズをつかったプレゼンが行なわれた。

4 未来型コンビニの開発

現代社会のかかえている課題はなにか?これからこの社会はどういう方向に向かって進むべきなのか? このことを未来型コンビニの開発を通じて考えていく。開発の軸は「環境」「福祉」「情報」「国際」「健康」「癒し」「自然」「興味」である。

次のようなコンビニが開発された。

- A ストレス発散コンビニ「癒し屋」
- B 福祉対応コンビニ「バリアフリー」
- C 多様性コンビニ「コンビニKAMA」

5 成果と課題

コンビニをさまざまな「ものさし」から「解剖」することで、身近なものから社会をみる視点を学んでいった。しかし、ここではコンビニの「明」の部分が中心であったので、「暗」の部分も今後は検証していきたい。